

令和7年度 第2回武蔵野市産業振興審議会 要録

【審議会概要】

日 時	令和8年2月19日（木）13：30～15：30
場 所	武蔵野市役所 813会議室
出席委員	福田敦会長、高橋勇委員、榎本一宏委員、坂井健司委員、平湯友子委員、田川良太委員
事務局	小池産業振興課長兼経済対策調整担当課長、花岡係長、村重まちの魅力向上担当係長、小澤主任、藤木主任
審議会次第	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>ア まちとわたしとあなたプロジェクト2025の実施状況について</p> <p>(2) 審議事項</p> <p>ア 各施策の取り組み状況に関する評価及び次年度の方向性について</p> <p>(3) その他</p> <p>令和8年度のスケジュールについて</p> <p>3 閉会</p>
配布資料	<p>次第</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 まちとわたしとあなたプロジェクトの実施報告について ・資料2 第三期武蔵野市産業振興計画管理・評価シート ・資料3 令和8年度スケジュール

【議事】

1 開会

・配付資料の確認

2 議題

(1) 報告事項

ア まちとわたしとあなたプロジェクト2025の実施状況について事務局より説明

平湯委員	ワークショップの「名前を呼ばれない」という話は、仕事をしていると思いつかない視点だった。
事務局	「人を通じた親しみを生む」という企画を受けての問いだと思うが、普段生活をしていると、まち、商店街において、美容師さんくらいしか私の名前を呼んでくれない、商店街と住民の距離が少し遠いという気がする、というところから、距離の近い、名前の呼び合えるような商店街が素敵なのではないかという話から生まれたとのこと。
事務局	<p>補足して、今回12月に2回のワークショップを行ったところだが、ワークショップで選出された3グループが、2月23日にアワードという形で改めて発表する機会がある。この発表に向けては、12月に初めて会った皆さんがチームを組んでこの企画を考えたが、そこから何度もそのチームの皆さんがまた会って集まって、今も企画をブラッシュアップして本番に臨んでいただいているというのが、今年新たな展開となっている。</p> <p>審査には市長、商店会連合会の坂井会長、副会長に入っただき、今回残念ながらこの発表には選ばれなかったグループの皆さんにも審査には加わっていただくというような形で、一体感を持って進めていくという仕掛けをした。</p> <p>今後は、最優秀賞に選ばれたものをどのように実行していくか考えていきたいと思っている。</p>

高橋委員	若い方がたくさん参加されているのはありがたいことだと思うが、まちの活性化ということを考えて、商店会に加入している方で、何歳ぐらいの人がこれに出ているのか興味があった。若い商店会加入者でこの事業に出ているということは、将来楽しくなると思うし、逆に50代60代ばかりでは寂しく感じる。
事務局	今すぐに数字は持ち合わせていないが、若い方も参加している。今回3グループ発表する中で、皆さん各グループに商店街の方が入っており、少なくとも二人は30代の方が入っている。その方々が結構発言をして、チームを引っ張っていく存在にもなっているのかなと感じる。
高橋委員	私も各商店の新年会などに出ていると、それぞれ商店会の人が一生涯懸命やっていらっしゃるが、それはあまり市民に届いてないと感じる。逆に10代~30代の商店で仕事する若い人たちがもっと発表する場だとか、親和性のあることをすることによって、まち全体の活性化なるのではないかと感じる。
榎本委員	参加者の属性とあるが、参加者はどうやって選んだのか？
事務局	市報等で周知させていただき、純粹に公募という形をとった。また、関係団体や学生に声をかけさせていただいた。 さらに、昨年度3回開催したワークショップに参加いただいている方にもお声掛けし、昨年度に引き続き参加した方も4分の1程度いらっしゃった。
榎本委員	武蔵野市は人口が伸びており、そういう方たちにも入ってもらって、武蔵野市に来て、武蔵野市でこれからどういう風に生活をされていくかという視点も考慮したのか。
事務局	今回のこの属性は、市内在勤の方や、よく遊びに来る方、市内在住の方ではなく市外の方という形で、そういった来街される方にも参加いただいている。
会長	このワークショップの報告は、SNS等での発信などはしているのか。
事務局	まだ発信はしていない。AWARDが終わった後、全体総括として報告する予定としている。
会長	スピードは大事なので、報告すべきことがあればさっとやると、次の機会に向けて良いと思う。 21日のワークショップを見学して非常にいいなと思ったのが、シニア版のキッズニア、子どもの職業体験をシニア版にして、これから今までとは違う第二とか第三の人生、そういったものに興味を示していけるような経験を、例えば商店街の場で何かやる。そういった意味で、若い人たちも大事だが、そういったシニアの人たちに対して楽しめるものを作ったらどうかという視点が、大変面白かった。 2つ目に焚火の企画があったが、去年と連動しているのか気になった。 最後に先ほど一番最初に話題に出たが、「名前を呼ぶ」ところについては、親しみやすさについて求める声があるということで、報告を聞いて非常に感銘を受けた。
高橋委員	このワークショップに対して、何か市はアクションするのか。 ワークショップをやっただけでは意味がない。市で何か動いけてくれた、形になると参加者もモチベーションが違うと思う。
事務局	今回はAWARDという形で、最優秀賞の企画を選出するということになるので、その企画を次年度以降、実施できる形にしていくということを検討している。
平湯委員	AWARDで選ぶことも、選ばれることも楽しいし嬉しいが、その瞬間に市が何を言うかということはずごく大事だと思う。検討していくのは分かるが、もうちょっと積極的でもいいのではないかと。 次の企画はこれだと打ち出されると、ワークショップの企画が空想の話ではないと感じられるのではないかと。
田川委員	まちと私とあなたプロジェクトは今年で2回目の開催である。 去年の反省点は、まさに平湯委員のご指摘の通り、企画したのはいいが、これがどうなるのか、というモヤモヤ感が残った。 今年度は、AWARDで選定するというプロセスを経て、できれば来年度（令和8年度）に、事業として最優秀賞として選ばれたものは実施していくということ市長に表明して頂くことになっている。

	<p>そうなってくると、本気度も変わってくるし、企画した皆さまにもお願いをしなければならぬし、メッセージ性を持った発信を最終的にはしたいと考えている。</p>
高橋委員	<p>やるのが目的ではなく、まちを活性化することが目的の事業だと忘れないでほしい。また、商店会にも特性があると感じるので、まちの特性にあった事業を提案するのもいいかなと思う。</p>

(2) 審議事項

ア 各施策の取り組み状況に関する評価及び次年度の方向性について事務局より説明

高橋委員	<p>まずコラボむさしのについて、なぜJAが入らないのか非常に気になっている。食、地域の活性化という記載はあるが、農地の使い方、また農地がだんだん減っているという事実も踏まえ、もう一度地産地消ということを眼目に置いて、コラボむさしのに農業の観点を入れると、農家の人たちも力が入るのではないかなと思う。</p> <p>二つ目に、武蔵野市は特殊詐欺だとか事件が多発していて、警察関係で聞くと、年間に何億というお金が地域の高齢者から搾取されているとのことである。そういった意味での防犯ということを見える形で支援してほしい。特に防犯カメラをもっとまちに至るところに設置すれば抑止力にもなると思う。もう一度重点地区を決めて設置してほしい。</p> <p>最後に、事業承継マッチング事業について、ぜひ金融機関を巻き込んでやるともっと精度の高い情報が取れるのではないかなと思う。金融機関はそれぞれの訪問先をまわっているので、状況は一番よく分かっていると思う。</p>
事務局	<p>コラボむさしのについて、評価いただけてありがたい。</p> <p>JAについては、以前からご意見いただいているところである。先ほど視聴いただいた動画はレストランの紹介であるが、市内産の農産物を使っており、その農産物にもクローズアップした動画になっている。また、11月に行われた農産物品評会も一つのイベントとして動画で取り上げており、市内の農家にも出演いただき、ご自身の生産されているものについて熱く語っていただいている。今後も、ぜひ農家さんとの絡みはしっかり考えていきたい。例えば、農家の圃場に出向かせていただいたり、農家さん自身がレポーターになって、自分のところで取れた野菜がどのように使われているか食レポする等、そういった企画も面白いと思っている。</p> <p>JAについては、なかなか生産量が安定しなかったり、作物ができない時期もあり、JAとしてフォローが難しいというような話を聞いているところではあるが、今後はしっかり考えていきたい。</p> <p>続いて、施策19の消費者被害について、消費者防止ステッカーを今年度配布している。現在8,000枚ほど配布したところである。こういったまちぐるみで消費者被害、特殊詐欺をなくしていこうということで、実際どれだけの抑止力となったかという効果測定は難しい部分はあるが、しっかりまちぐるみで意識を持っているところをアピールしていきたい。</p> <p>防犯カメラについては、市としてもかなり力を入れている。市内、公共施設や公園、商店街も含め、まだ未設置のところについては設置していくということで、警察とも連携しながらやっていくと聞いている。</p> <p>加えて、防犯や安全といったところで、商店街の街路灯についても、体感治安の維持向上というところでは、大きく寄与していると思っている。街路灯の補助も、次年度から補助率を上げ、より街路灯を維持しやすくすることで、まちの安全、安心に寄与していく。</p> <p>最後に、事業承継のマッチングについて、金融機関を絡めてというのは、まさにご指摘の通りと思っている。市としては、むさしの創業・事業承継サポートネットの連携機関として、会議所、市内金融機関、多摩信用金庫や西武信用金庫、政策金融公庫に入ってもらっており、情報共有しているところである。事業承</p>

	<p>継は課題ではあるものの、なかなか顕在化しにくい部分もあるので、しっかり情報共有をしながら、こういった取り組みをすべきか今後もしっかり検討していきたい。</p>
高橋委員	<p>特殊詐欺のステッカーについて、字が多すぎないか。</p>
田川委員	<p>このステッカーは、1枚1枚シールではがれるような仕組みになっている。例えばインターホンに貼るなど、どんなところでも貼れるよう工夫されている</p>
事務局	<p>市の福祉部署等だけでなく、ヤクルトさんの訪問時や、都営住宅だと管理組合の方が配布している。</p>
高橋委員	<p>今後も徹底的にやらないといけない。</p>
会長	<p>金融機関や農業関係、学校あるいは大学について、それぞれ施策によっては関係の深いところがあると思うが、これは計画の関係機関として入れるのは難しいか。</p>
事務局	<p>施策にもよるが、例えばJAは今後ぜひ参画していただいて、一緒に考えることも必要だと思う。</p>
会長	<p>この表だけの話ではなく、アウトプットやアウトカムという話になると、アウトプットは具体的な件数などで示しやすいものもあると思うが、アウトカムの指標が、金融機関だったら持っているようなデータもあるし、そういったものを活かすという意味でもここに巻き込んでおいた方がいいかなという感じがする。</p>
榎本委員	<p>コラボむさしのについて、認定店舗であると店に表示がされているのか。</p>
事務局	<p>今年度から、透明なプレートに「コラボむさしの認定店舗」というPOPを作って配布している。お店に行った時も、市内産の野菜を使っているというPRができるように工夫を始めた。</p> <p>コラボむさしのの動画について、孤独のグルメの原作者の久住さんをはじめ、市の職員も出演しているので、ぜひ一度ご覧いただきたい。コラボ認定証も掲げている。認定についてはもっと周知していきたいと思っているので、今後さらに工夫していきたい。委員からも、良いアイデアがあれば、ぜひご教示いただきたい。</p>
坂井委員	<p>審議会の報告事項ということで記載されている内容について、一部追加したらどうか、という各論的な話をさせていただきたいと思う。私は商店会連合会の会長という立場でもありながら、まちの魅力を上げるための施策も、実際に現場で動かしている立場として、色々思うところがあった。</p> <p>まず施策1の麦わら帽子について、お店の作りをもうちょっと踏み込んで、入りやすい店作りにしたほうが良いと思う。狭い間口の4分の1が潰れており、陳列の都合上仕方ないが、なかなか入りづらくなっている。そこは市としても検討していく方法にしたほうが良いと思う。色んな匂を集めていることは大事だし、市のアンテナショップ麦わら帽子の運営として理解しているので、より市民の方に知ってもらうために、もっと入りやすいお店作りをしたほうが良いのではないかと、踏み込んで書けないかと思った。</p> <p>それから施策2について、まず電気代の補助については、サポートに感謝している。また荷捌きについて、吉祥寺活性化協議会で検討していることがある。吉祥寺セントラルエリアについてはルール化されているが、例えばウエストエリアでも、交通体系を見直さないといけないはずで、その荷捌きのルールも考えていかないと、あの狭い通りに駐車車両が入っているという状況になりやすいと思う。なので、例えばエリアの拡大を含め、現状に満足するのではなく、未来に対してコミットできるような書き方ができないかと感じた。</p> <p>施策3の公会堂の建て替えに関しても同様で、まちの産業振興・商業振興の中で、まちの魅力を上げるために、例えばアニメノムサシノ等、たくさんイベントで人を呼んでいるが、せっかくいいソフトをやっても、人を集められる場所がないというジレンマはすごく感じている。具体的なものは書きにくいからこそ検討する、検討していくという表現になっている気がする。具体的に、公会堂を例えば350あるキャパシティを270に減らす、という逆行している計画に今なっていると、その次はどうするのかというところも非常に納得できないところもあるし、その次はどうするのかというところ</p>

	<p>ころを考えていかないといけないところなのかなと思うので、検討するという言葉で終わってしまうと、その当事者は不満が残ると思う。</p> <p>これからの産業振興は、ソフトと、まちづくりというハードというものが伴走していくべきだと思う。どうしても産業振興計画は、まちづくりの要素が入ってきづらい。例えば施策2でも、まちづくり推進課をはじめとしたな関係課と書かれており、一緒に考えていくようにしていければ、もっとリアルな話になると感じている。</p> <p>それから施策12のまちとわたしとあなたプロジェクトについて、2月23日にAWARDがあるが、その結果を見ないことには評価シートの記載はまだ書きづらいのではないかと。展開としては非常に期待をしているので、もし時間があれば委員の皆さんも少し見に来ていただいて、エネルギーを感じていただきながら、施策の評価についてお願いしたい。</p> <p>最後に、現場での当事者的目線で感じているのは、吉祥寺地区も中央地区も武蔵境地区も、これから商店会の担い手は本当に不足してくることは顕在化した課題だと思う。その担い手不足について、今現実にいる商店街のメンバーや、これから商店会を担っていく事業承継者が、どうやって商店会の活動に参加しやすくなるのか、事業の継承とはまた違う角度で、ソリューションを考えていくような項目はどこ分野になるか見ていたが、大学生や自分でこれから事業を始める人たちに対する支援とか、そういう人たちに伝わる、例えば子育て世代の若い人たちや武蔵野市に新しく入ってきて生活を始める人と繋がるためにどうするかというのはまちとわたしとあなたプロジェクトをはじめ書いてあると思うが、現在商店会の人たちが、自分の事業以外に時間を作ってみんなボランティアでまちのために活動しているわけであり、そういう人たちはどうやって救い上げていくのかという目線をどこかに入れておかないと、表層的な産業振興にしかならないので、コメントとして入れたいと思う。</p>
<p>会 長</p>	<p>大事な視点をご指摘頂きありがたい。最後のところは、例えば施策12は事業者連携、コラボむさしがあるが、今やっているのは市民や学生、高齢者等を巻き込んでということではあるが、事業者同士の連携も当然あるわけで、B to B、B to C、それぞれに目を向けることによって、地域で本業で稼げるという形の取り組みにつながる機会にもなるし、今現状の事でやっていることとはまだ発展の余地はあるとしても、視野を少し広げていくという話も視点としては入れるべきかと思う。</p> <p>一般論として非常に難しくなっているのは、商店会の空き店舗対策等、地方ではいろんな取り組みをやっている、空き店舗が埋まった等事例があるが、必ずしもその人たちが組織への期待をしているかというと、そうでもない。商店会に積極的に入らないということもあると聞く。これまでの商店会の組織の在り方、延長線で彼らを巻き込むのは難しいというのも報告されている。そのあたりをどうしてかということ、組織に取り込むのか、組織とはまた別の形としてやる必要があるのか、新しい課題として研究していく必要がある。</p> <p>これまでの想いと、実際に創業に関して、商店会への加入を義務付けるという形の補助をつけるとか、そういうのは有効に活用できる場所もあるし、なかなか課題もある。複雑でいろんなケースがあるので、武蔵野市の場合がどうかかわからないが、意識していく必要がある。</p>
<p>坂井委員</p>	<p>危機感というのは、武蔵野市の魅力をアップするために、みんなで汗をかいているところの先に、本当に魅力が上がっていると評価されているのかなと、その評価が聞こえてこないのが、みんな飢餓感を持ちながらやっているように思う。しかもその担い手が徐々に減っていく中で、インセンティブの仕組み等も含め、次の担い手にどういうステップをふんでもらえば参加してもらいやすくなるのか考えていけるような計画になればいいなと思う。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>新年会をやると、参加者は事業をやっている人よりも、不動産屋が多い。武蔵野市は、確かにそうなってきたと感じた。もう一度、店を出してお客様に商</p>

	品を提供している人たちにフォーカスをしたまちづくりにしていかないといけないと思った。
会 長	商店会に限らず、問屋街などそういうところでも、同じ課題がある。事業者がなかなか成り立ちにくいという状況になっていて、特に小規模なお店がだんだん減っている。現金問屋のビジネスモデルが発揮できた時代はよかったが、そうではなくなってきた時に、だんだんそのエリアが個人とか撤退したり、オーナーが変わったりした場合に、本来ちょっと考えたこと違う業種やあるいは大きなビルに変わった中で、ちょっと違うまちの構造ができてきているというところであるが、その際に DNA が引き継がれないという、商業の集積という観点で悩ましい課題である。
榎本委員	農業も同じで、後継者がいるが、やらないという現状もある。武蔵野市でも近隣市でも、同じ状況がある。商店会と同じような状況であるように感じる。
高橋委員	仕事の意義がだんだん失われていっていると感じる。
会 長	だからこそ関係性づくりが大事だと思う。
事務局	このシートの中でも、審議会の意見という部分があるので、こういった意見があるといったところはしっかり残したいというふうに思う。それ以外にも、麦わら帽子の運営、吉祥寺セントラルエリアの荷捌き、公会堂等のハード面など審議会意見として、関係各所にしっかり共有したいと考える。
平湯委員	<p>施策6の買い物支援について、ニーズがなかったと評価されているが、もう少し検討していただきたい。顔の見える関係性が構築されることで、受援力が高まり、アウトリーチの側面も出てくると考える。</p> <p>施策16の誰もが働き・活躍できる環境づくりについて、子育て中に心身のバランスを崩し働けない方や、生育状況が芳しくなく自己肯定感の低い方が子育てをしている家庭などもある。そのような方は人とつながることが必要だと考えるため、高齢者だけではなく、幅広い層を対象として検討していただきたい。</p> <p>また、評価の欄に取り組んでみた結果、見えてきた傾向などを記載いただく次回につながる検討ができるため、そのような記載を行っていただきたい。</p> <p>子ども子育て分野では、市内で起きた事件や、子どもの自殺の件数の増などの現状に非常に危機感を感じている。コロナ禍で「人とつながらないで子育てすること」が当たり前になってしまった。上の世代は非常につながりがあった。しかし、コロナ禍の集うと白い目で見られるという経験から、集うことの抵抗やプライバシーの距離感が遠くなっているように感じている。</p> <p>武蔵野市に住んでいる方は聡明な方が多く、きちんとしないと、ちゃんしないといけない、と考えている方が多いという認識を持たないといけないと感じている。</p> <p>日本の未婚者のうち 76.3%の方はパートナーがいない、という研究結果があり、その割合が急が増えているという。その背景には、「対話に慣れていない」「対話の怖さ」があるという。このことから子育ての中で、思うようにいかない際に、暴力に至ってしまう可能性がある。</p> <p>そのため、商店街などで名前を呼んで対話を育むような環境はとても良いと感じた。</p> <p>施策7の中で、子どもを育みという記載があるが、まち全体で子どもを育むとした際に、一番子どもが見える位置にいるのが商店街の皆さんだと思う。子育てひろばなどに行けない方も商業施設は利用している。ぜひ商店街の皆さんに力を貸していただきたいと感じる。</p> <p>そのような中で、施策7の次年度の予定は今の記載でよいのかと考える。</p>
事務局	具体的事例だけでなく、体系的な内容を含めて取り組み内容を検討したい。
田川委員	産業振興計画をたてるときに専門部会の意見があり、本計画に子どもの要素が加わったのは非常に特徴的だと考えている。私も子どもの頃、商店街に育てられた意識がある。

	<p>まずはつながりを作っていくことを意識した展開を検討し、来年度の計画につなげていきたい。</p>
平湯委員	<p>ストリートピクニックのような道路を使ったイベント、チョークを使って「道遊びのような」子ども向けのイベントなど、商店街ならではの楽しみ方、出会い方などを検討していただきたい。</p>
高橋委員	<p>自社で、高齢者の方が集まる日や親子が集まる日を設けているが、いつも同じ人が来る。来ない人にどうやって伝えたらよいか、いつも考えている。一度参加した子どもに次回は友達も連れてくるように伝えたと、新しい子が来てくれる。そのような仕組みも良いと感じている。</p> <p>また、花火大会や餅つき大会などを開催すると、子ども食堂を運営している方から無料券をもらえないかと相談を受ける。その数が想定より多く求められ、喜ばしいがその反面需要があることにショックを受けている。</p> <p>なかなか表に出られない子どもが気楽に参加できる場、仕組みを作ってほしいと思う。地域に出て楽しんでもらいたい。</p> <p>外国人が武蔵境でもすごく多い。今のうちから教育的なことをしっかり伝える方法はないか考えている。ただ、その半面インバウンド観光客はあまりいないと感じており、武蔵野市の魅力を発信し、誘客したいとも考えている。</p> <p>帰宅困難者の問題。自社でも市から防災備蓄品を預かっているが、地域の方々には知らないのではないかなと思う。しっかり伝えることが大事だと考えている。</p>
田川委員	<p>評価自体は記載の通りだが、関係機関とやり取りする中で、計画に対する温度感が違う。内容をもっと意味のあるものとするためには、温度感を合わせていくのが課題</p> <p>先ほどアウトカムの話もあったが、どのくらい何ができているのか目に見えていない評価軸をしっかりと立ててどこを評価するということの難しさがある。</p> <p>改めて進行管理で課題として感じた。来年度できる限り盛り込みたいと思う。</p> <p>また、次の計画に育てていくためにも、本日の審議会でもいただいたご意見を大切にしたい。</p>
会長	<p>かなり細かい現場サイドからのご意見をいただけて臨場感あるご発言だったかなと思う。</p> <p>このシートについて、アクティビティとしてはよく書かれているが、アウトカムについては、一部記載がある程度で、その結果何が起きたかというのが必ずしも明らかになっていないという課題があると感じている。</p> <p>しかし、基礎自治体はアウトカムの指標を取りようがないということも実情もある。そのため、オフィシャルな手法ではないが、傾向・トレンド・取り組みに対する評価や意見などを指標にするというやり方があると思う。</p> <p>どれだけの方を巻き込んだのか、関わったのかという評価もあるかなと思う。</p> <p>例えば、CO+LAB MUSASHINO 事業で動画ということがあったが何か発信していく機会として SNS をうまく使っていく上で、例えば、学生にテーマを与えて商店会の会長などに取材し、動画（インスタグラム）を作成してもらおう。オフィシャルではないけれどもそういう巻き込み方、関わる人を増やしていく、というのをアウトカムの考え方とするのもありかな。オフィシャルな形ではないが、自分たちでアウトカムを作り上げていく。あくまで客観的に定性的な傾向としてあり得るかなと思う。</p>
	<p>それでは、皆様からいただきましたご意見も踏まえて、事務局においては、シートを完成させて各委員に改めて展開をしてほしいと思います。</p> <p>修正点などの反映確認については、正副会長にご一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。</p>

(3) その他

令和8年度のスケジュールについて事務局より説明

田川委員	委員の任期が7月。改めてご依頼させていただきます。
------	---------------------------